

平成29年度 第1回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	平成29年5月14日（日）午後2時00分～4時00分
開催場所	婦人会館
参加者	男性 4名 女性 5名 計 9名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ 3 懇 談 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・ C o C oバスの運行路線・ 図書館の開館時間・ カンガルーポケット・ 民生委員の欠員・ 新庁舎の建設計画・ 小金井公園のフリーマーケット・ 市長のリーダーシップ（組織運営）・ J R中央線不通時の対応（東小金井駅）・ 東小金井駅北口土地区画整理事業に伴う駐輪場の代替地・ 国民健康保険の財政状況・ 書道教育の推進・ 都市農業の保全・ L E Dの環境への影響・ 固定資産税の増収対策（都市計画）・ 民間の発想を活かした行政経営
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

平成29年度 第1回市民と市長の座談会（懇談内容）

1 開 会

○司会者

皆様、こんにちは。本日はご参加いただきましてまことにありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の天野と申します。よろしくお願いいたします。

この座談会は、昨年度から開始したもので、毎年5月と11月に年2回から4回程度、定期的で開催するものでございます。本日は、今年度の第1回目の開催となります。市民の皆様からの率直なご意見を伺い、市政に反映させたいという思いから、特にテーマは設定せず、フリートークというかたちで開催させていただきます。

本日の進行についてでございますが、このあと、市長の西岡より皆様へごあいさつということで、市政を運営していくにあたっての方針やこれまでの状況につきまして報告等をさせていただきます。その後、懇談ということで、皆様と市長とのフリートークというかたちで進めてまいりたいと存じます。

ここで、3点ご了承いただきたいと存じます。1点目、本日は、議事録作成のため録音をさせていただきます。2点目、ホームページ掲載用に写真を撮らせていただきます。後から撮りますので、顔が写るようなことはないかと思っておりますけれども、それでも写るのがいやだという方いらっしゃいますでしょうか。大丈夫でしょうか。3点目でございます。本日の終了時刻、午後4時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては、速やかにご退場いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。はじめに、市長の西岡よりごあいさつ申し上げます。

2 市長あいさつ

○西岡市長

皆様こんにちは。日曜日の午後2時という貴重なお時間をいただきまして、市民と市長の座談会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。小金井市長の西岡真一郎でございます。今日は、限られた時間ではありますけれども、参加者の皆様方からは様々な分野で、今お感じになっていること、市政への思い、要望、あるいは疑問、それからご提言、様々なお声をお聞かせいただきたいと思ひまして、開催をさせていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

小金井市長に就任をさせていただきました、1年と5ヶ月が経過したところであり、ます。非常に濃密な毎日であります、選挙戦で訴えたこと、そして市長に就任をして掲げさせていただいた方針や施政方針、こういったものを実現させるために、日夜、努力しているところでございますが、まだまだ始まったばかりの道半ばであります。職員の皆様、市民の皆様、市議会の皆様方との対話を大切にしながら、小金井市の未来、そして今を生きる市民の皆様、そして小金井の子ども達の将来のために、よりよいまちであるように全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、どうぞ皆様、よろしくお願ひいたします。

今日、皆様方に資料としてはですね、施政方針というものをお配りさせていただいております。これは、毎年、年度当初に、私が1年間どういう方針に基づいて市政を運営するか、具体的にどのような取組みを行っていくのかということ、明らかにしたものでございまして、大変重要なものであります。基本的に、今日は、こちらにそってお話をさせていただきたいと思ひます。そしてもう一つが、小金井市行財政改革プラン2020。これは策定したばかりでありますけれども、一部お配りをさせていただいております。こちらは、時折ご参照していただこうかと思ひますが、非常に大切な計画でございます。小金井市の厳しい財政状況を克服するためのプラン。行政の質、量、組織、機構のありようをですね、常に見直していかなければいけません。そういった、新しい、私のもとで策定した行財政改革プラン2020をお配りさせていただいております。なお、入り口のところで、作成したばかりでありますけれども、小金井市のPRパンフレット、シティプロモーションの

一環として作ったものでありますが、お配りをしてございますので、ご活用ください。また、最近メディアの方々がとても注目されておりますけれども、小金井市教育委員会のほうで作成している、魔法の言葉集という冊子を3種まとめて、置かせていただきました。これはですね、小金井の子ども達が、小学生・中学生が落ち込んだり、悩んだり、苦しい時に、親や、保護者や、学校の先生や、友達、きょうだい、いろんな方から、こういう言葉をかけてもらって、立ち直った、元気になった、勇気もらった、ということで、第1集をですね、子ども達からいろんな言葉を募集して、そしてそれを全校生徒に配布をいたしました。これが非常に好評でありまして、大人が読んでも、なんというんでしょうか、感激するといいいましょうか、感動するといいいましょうか、友達同士でもこういう言葉をかけあっているんだという子ども達の姿が脳裏をよぎるわけでありまして、非常に好評でありまして、1集、2集、そして第3集と作ったものでありまして、ぜひご活用いただければと思います。また、もう一つがですね、小金井の坂と遊歩道マップというマップをお配りしております。小金井は国分寺崖線ですね、40本以上の坂があります。坂のまちでもあります。先日テレビ番組でも、私も取材をさせていただきましたけれども、坂にはいろんな魅力、文化、歴史、景観があります。この坂道マップですね、ぜひご活用いただければと思います。それから今、ジェイコムさんと一緒にコラボしておりまして、長つと散歩という番組を一生懸命、継続して撮影しております。これは小金井市の魅力、人、歴史、文化、スポット、味、小金井のいろんな財産、宝物を市内外の方々に、広く発信をさせていただいております。今度5月22日の日にですね、小金井市長の担当で、2週間、番組が始まります。ぜひご覧いただければと思います。ジェイコムに加入していなければ見れませんが、集合住宅ですとですね、まとめて加入されているところがありますので、そういうところは無料で見れると思っております。ちなみに、今度の5月22日はですね、初めて、市民の方が、一緒に取材をしたいと応募を、公募をかけましたところ、女子大学生の、小金井市民の方が応募してくれました。観光学部で、まちおこしを勉強している大学4年生の方です。偶然にも、南小、二中、私の後輩だったので、懐かしの通学路と一緒に歩いたり、思い出を辿ってみたり、野川、小金井神社を歩いたり、二中の北側にですね、キウイフルーツ畑があるのをご存知ですか。11月23日には、毎年、

キウイフルーツのもぎ取りができるんですよ。人気がある年は1日で終わってしまいますけれども。今年は初めて養蜂を始めたんですね。ミツバチを飼ってまして、これはキウイフルーツの花が交配しやすいようにということで、農場主の方が試行的に始めたんですが。そんな、小金井では珍しい、養蜂場を取材させていただいたり、農工大通りを歩いたりさせていただきました。いろんな方が取材されていますので、お時間がある方は見てください。

それでは少し本題に入らせていただきたいと思います。このあとは座ったまま失礼いたします。小金井市にはたくさんの課題がございます。市長に就任以来、私はこれまで、新庁舎の建設、あるいは（仮称）新福社会館の建設、清掃関連施設の整備、急がれる待機児童解消対策など、さまざまな課題に取り組んでまいりました。平成29年度は、これら小金井市役所の諸課題を解決するための、私は、極めて重要な1年であると位置づけております。この1年間の取組みがどれほど前進をし、そして市民の方々と相互に理解をしながら、情報共有しながら、進めていけるのか、このことが、ひいては小金井市の将来を決定付けると思っております。特に、庁舎、福社会館、清掃関連施設は、この1年間、とても大切な検討期間になると考えております。本日はこれまでの取組みに対するご意見、今後の進め方についてのご要望、などなど、皆さんからはさまざまな、幅広い忌憚のないご意見をいただきまして、今後の市政の運営に参考にしてまいりたいと考えております。なお、あまり詳細なことであつたり、場合によっては今日、ここで即答できないこともあろうかと思っておりますが、そういったご質問などにつきましては、後日、何らかのかたちで、丁寧にお伝えさせていただきたいというふうに考えております。まず最初に、この施政方針にそったかたちで、少しページをめくりながら、20分から30分くらいでお話をさせていただいて、残された時間は、もうすべて市民の皆様方からのいろんなご意見に活用させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

まず施政方針です。1ページ目、小金井市の最優先課題は、なんと言っても可燃ごみの解決であります。可燃ごみ処理の実現であります。長くなりますので、これまでの経過は省きますけれども、平成19年から、小金井市は二枚橋焼却場を閉鎖いたしまして、多摩地域の多くの自治体の皆様方に。小金井市独自の、これは広域も含めてですが、小金井市が構成している、あるいは単独でも含めて、所有してい

る焼却施設がない状態が続いて、もう10年目を迎えております。おかげさまで、昨年、そして今年度と順調に、円滑に、可燃ごみの処理を行わせていただいております。平成32年の4月より、多摩地域の多くの方々にご支援をいただいております。平成32年の4月より、浅川清流環境組合、日野市、国分寺市、小金井市の、この三市で構成する新しい可燃ごみ処理施設の稼働をめざして、今いろんな準備をしております。おかげさまで、昨年末に、浅川清流環境組合の焼却場の建設事業者が決定をいたしました。落札をしたということになります。そして、今年の10月から、日野市におきまして、新しい焼却施設の建設工事が始まる予定でございます。順調にいきますと、平成31年の10月から試験運転開始。そして32年の4月より本格稼働となります。したがいまして、残りあと3年間、29年度、30年度、31年度、この3カ年は、引き続き多摩地域の皆様方に、小金井市民の皆様方から毎日出される可燃ごみの処理をお願いする、ご支援をいただくこととなります。平成29年度から枠組みが変わりました。今までは、西多摩衛生組合、あと単独で自区内処理を行っている昭島、そして多摩川衛生組合、そして国分寺市、この4つの焼却施設に大変お世話になりました。引き続き、多摩川衛生組合と国分寺市には、今後3年間ご支援いただくことに、予定しておりますが、西多摩衛生組合と昭島市は、平成28年度いっぱいまで終了いたしました。大変感謝をいたしております。そして新しくふじみ衛生組合、そして柳泉園組合、こちらにもお世話になることになりました。これは第2ブロックという地域でありますけれども、こういった可燃ごみの処理につきまして、何かあったときに支援する体制が整えられました。この方針に基づきまして、小金井市も第2ブロックの中で、ご支援をいただけることになりました。大変感謝をいたしております。なお、引き続き、可燃ごみ処理の、近隣自治体の方々へのご負担を軽減させる必要がございますので、引き続き市民の皆様方の、ごみ減量へのご努力を、これからもお願い申し上げます。しかし、この大変厳しい、危機的な可燃ごみ処理の状況がですね、市民の皆様方のご努力によりまして、大きく減量やリサイクル率が、結果として進んだと、こう思っております。ありがとうございます。人口10万人から50万人未満の自治体の中で、一人当たりのごみの排出量が小金井市は、実は1番少なくなりました。そしてリサイクル率と呼ばれるものも、平成26年度の数字だったと思いますが、49.7%と、これも1番高い数字でございました。

ちょっと担当から聞いたら、最近、小金井市を上回るリサイクル率を成し遂げた自治体が現れたということでございますが、小金井市は直近では、50%を超えたと聞いております。また、小金井では一人ひとりの市民の方々のご努力、分別や減量への取り組み、生ごみもですね、水をきってだしていただく、生ごみ処理機を購入していただくなどなど、たくさんの取り組みを行っていただいております。ありがとうございます。また、小金井では事業者の方々にも、大変ご努力いただいております、大きなスーパーはですね、リサイクル推進協力店になっていただいて、自分達で販売したさまざまな、ペットボトルや缶や発砲スチロール系のものをですね、自主回収していただいております。この自主回収になるごみの量がですね、ある大規模チェーン店の店長さんから聞きましたけれども、その方は全国でいろんなお店を支店長、店長として頑張ってきましたが、とてつもない量だと言っていました。市民の方々の回収率は本当に高いと、びっくりされていました。で、「市長、3日分の、私達が回収したのを見てください。」と、倉庫に行きましたけれども、私も、その3日分の回収した全量を見まして大変驚きました。これだけたくさんの市民の方々の意識、そして、事業者の方々にも、これだけのご努力をいただいていることに感謝をしております。なお、可燃系のごみにつきましては、まだまだ本当ですね、課題があります。今年度からはですね、4月からですね、ごみの収集日を大きく変更させていただきました。市民の皆様方にはいろいろと変化があったと思います。ご迷惑をおかけいたしておりますが、これは先ほど申し上げましたように、ごみを持っていく処理施設が大きく変わったことによります。もともと平日回収だったんですね。土日回収は暫定的な措置だったんですけれども、平日回収にいたしました。土日の収集はなくなりました。で、新たに枝木、枯葉、これもですね、電話で特別にお申し込みいただいておりますけれども、今、戸別収集ですべて回収としました。それは、リサイクルすることになりました。これだけで、かなりの量のごみの減量につながります。最終的に何トンの減量になるのか、いろいろ予想はしていますけれども、1年くらいやってみないとわかりません。また、季節によっても大幅に変わりますが。この枝木の、枯葉の戸別収集、リサイクル化も初めて4月から実施をさせていただいておりますが、大きな成果があがることを期待しております。

続きまして、2ページ目のほうにいけますけれども、予算の概要と市政運営の基本理念でございますが、平成29年度の予算につきましては、おかげさまで、今年3月に開催いたしました、第1回小金井市議会の定例会におきまして、一般会計予算、特別会計予算、合計642億円でございます。それから副市長などの人事議案、さまざまな条例改正、このすべての議案を原案どおり、議会の皆様方には、ご議決をいただくことができました。したがって、4月の1日からですね、さまざまな予算の執行、事務事業の執行に、全力をあげているところでございます。2ページ目につきましては、予算の概要について書かせていただいております。

そして、私が市政運営に臨む四つの基本理念について、少し申し上げたいと思います。2ページ目の、下から6行目からですね、3ページ目にかけてだと思います。まず私は市民と行政が共有するランドデザイン作りというものを重要視しております。まだまだ具体の議論の積み重ねはこれからですけれども、まず前半の約2年間に関しましては、重要課題を必ず前に進めるということで、緊急課題に取り組ませていただいております。そういう状況の中で、市民や議会、そして職員の方々のいろいろな、そのランドデザインにつながるための対話に全力をあげているところであります。この市民と市長の座談会も継続して開催をいたします。去年は、若者の皆様方との対話なんかにも参加をさせていただきました。また、最近はですね、障がい者差別解消条例を今、地域自立支援協議会の方々を中心に練り上げていただいておりますが、もう3回ほど市民意見交換会、当事者の方々から声を聴く会を開催させていただきました。いろんな活発なご意見をいただいております。また、先月は、新福祉会館の建設に向けた、説明会、意見交換会を開催させていただきました、延べ80名くらいの方々にご参加をいただき、大変活発なご意見をいただいたところであります。また、公共施設等総合管理計画、ちょっと難しい言葉なんですけれども。小金井市にはたくさんの公共施設がありますが、これから一気にですね、大変な老朽化、更新の時期を向かえることとなります。そのために、皆様方には、今日は、分厚い資料なのでお配りしておりませんが、公共施設等総合管理計画というものを策定いたしました。2年かけて策定いたしました。これは、小金井市がこれから、橋、道路、学校、公共施設、こういったことにどうやって向き合っていくんだという基本的な考え方を示したものでありますが、この策定につきまして

も、ワークショップ、説明会、パブリックコメント、さまざまな方策を用いて、いろんな意見をいただいたところがございます。また、職員の皆様方ともですね、私まだ新人市長でございますので、小金井市にも691名の正職員、臨時職員、再任用、多くの職層の方々が合計千人近くお仕事をされております。特に正職員の方々とですね、各職場ごとに、今、意見交換会を断続的に開催させていただいております。私にとりまして現場の、いろいろな職員が抱えている課題、こういったものを聞かせていただく重要な機会となっております。

また、3ページ目のほうにいきますけれども、市民サービスと住民福祉を向上させるための真の行財政改革の取組みについて、今、鋭意取り組んでいるところがございます。まさに今、お配りさせていただいております、行財政改革プラン2020に基づきまして、いよいよ今年度新たな一步を踏み出します。小金井市は、第1次行革、平成9年から平成27年度までの間、第1次行革、第2次行革、第3次行財政改革に取り組んでまいりました。六十数億円の大きな成果をあげているところではありますけれども、この行財政改革は、終わりが無いと思っております。常に取り組まなければいけないと思っております、新たな視点で、この行財政改革プランに取り組んだところがございますので、今日は具体の説明は避けさせていただきますけれども、お配りしている行財政改革プラン2020、こちらにつきましては、ぜひご参照いただきまして、また今後、機会がありますれば、いろいろなご意見をいただきたいと思っております。目的は何かといえば、これは行政サービスの向上であります。市民サービスを向上させるために、作り上げたプランであります。これをしっかりやり遂げなければ、私は小金井市の未来は来ないというふうに思っております。ハードルの高いもの、厳しいもの、まだまだ市民の方々の理解を得ながら進めなければいけないもの、職員の理解を得ながら進めなければいけないもの、たくさんの課題がございますけれども、基本的にはこの方針にそって、行財政改革を進めていきたいと思っております。

次も3ページ目ですね、公共施設全体の将来ビジョンの策定と庁舎問題の解決です。今日も、この庁舎問題につきましては、いろいろなご意見があろうかと思いますが、ぜひいろいろお声を聞かせていただきたいと思っております。基本的には、平成4年に蛇の目の跡地を購入してから、もう26年間が経過をするところであり

ますが、この間、いろいろな変遷を辿ってきた小金井市の庁舎問題であります、私といたしましては、この分散された、今の庁舎の状態。本庁舎、第2庁舎、健康課、本町暫定庁舎、この分散化されている状態は、市民の皆様方にとりましても、大変効率的ではないというふうに思っておりますし、業務上、職員の立場になっても非効率的な部分もあります。また、財政的な課題もございます。また、防災のことを考えても、本庁舎の老朽化、その他の公共施設の老朽化を考えても、この庁舎問題は、なんとしても私は解決をさせていただきたいと思っております、市長に就任してから、本当にさまざまな議論をさせていただきましたが、最終的には平成33年度に、蛇の目の跡地に庁舎を建設するというので、ロードマップ、年度、財政見通し、その財源、それから日程表、こういったものを市議会の皆様方や市民の皆様方にお示しをさせていただいております。平成29年度は、まず、29年のスタートですね、年明けからですね、測量を行いました。だいたい終わっております。それから地歴調査というものを初めて実施をいたしております。地歴調査というのは、あの蛇の目の跡地が、どういうふうにご利用されてきたのかという歴史の変遷を辿りまして、その結果、土対法（土壌汚染対策法）に基づいて土壌汚染対策が必要であるのかどうなのか、そういうことを判断するための大変重要な地歴調査を、今、行っております。また、予算をご議決いただいたことによりまして。新庁舎の建設は蛇の目の跡地に行います。どういう方策で、どのような建設手法で、あの土地を活用したらいいのかということに関しましては、やはり専門的な知見を得る必要がございますので、今、準備をしているところであります。建設調査委託ということで、小金井市にとっての最良の庁舎問題の建設の方策を練り上げていくための事業者を、まもなく公募することになります。あわせて執務環境調査の事業者の方々も公募いたします。どのような、小金井市は、この人口、この地理的状态、そして立地条件、そういったものを含めると、小金井市はどのような市役所の庁舎を、どういう機能を入れたらいいんだろうか、ということ専門的な方々の意見をいただきながら、積み上げていきたいというふうに思っております。また、あわせて新福祉会館につきましては、やはり、庁内検討させていただいた結果、蛇の目の跡地が最有力の候補地ということで、議会の皆様と市民の皆様方にもご説明をさせていただきました。そして、同じく、竣工目標を平成33年度と目標をさだめさせてい

いただきました。財源もお示しさせていただきました。建設工程もお示しをさせていただいておりますが、今年度は、具体的な議論をするための、市民検討委員会を7月から設置をさせていただきます。今度の火曜日がですね、この市民検討委員会の市民公募の締切日となっております。この市民検討委員会の中では、立地、機能、規模、こういったものにつきまして議論をしていただいて、私宛に答申をしていただくことを予定しております。その答申に基づいて、最終的な決定を出していきたいと考えております。まずは庁内で、今、素案を作る庁内検討を行わせていただいているところであります。なお、なぜ新福社会館は、本町暫定ではなくて、蛇の目の跡地が最有力の候補地なのか。平成31年、予定どおりやれば早く終わるではないかと、一刻も早く福社会館の機能を回復するのが市長の責任ではないかと、こういったご意見を、議会からも市民の方々からもお寄せいただいております。また、新福社会館を閉館をした。これはもう老朽化をし、耐震改修が事実上困難な建物である以上、継続はできないということで、昨年3月に閉館をさせていただきました。その後、代替施設をですね、郵便局本局の西側に、2階が会議室、社会福祉協議会、さまざまな老人クラブ、悠々連合会、オンブズマン、そういったかたちで、今まで福社会館に入っていた方々のいろんな、仮移転先がすべて解消いたしまして、今稼動しているところであります。まだまだ代替施設がたりない、というご意見をいただいているところであります。しっかり受けとめております。なお、平成31年に本町暫定庁舎に作るという計画はありましたけれども。あの時と今と大きな違いがあります。それは、庁舎を33年度に作るという目標が、今あるということでもあります。平成31年に本町暫定に作るという決定したときには、庁舎の蛇の目跡地への建設については、はっきりとは示されていなかったと思います。そういう状況であれば、確かに福社会館の機能を先行的に解決するんだという考え方は成り立つとも思います。しかし、私は、蛇の目の跡地に一刻も早く、早期に庁舎問題を解決するということが、動き始めればですね、状況は変わってくると思っております。そういう状況の中で、福社会館を蛇の目跡地に、最有力候補にした理由は四つあります。一つは、福社会館を利用する方々は、市役所の福祉部門にもいろんな申請をすることになりますから、建物が一つなのか、同じ敷地内にあるかは別といたしましても、近くにあったほうが良いというのは、これはもう、私もそう感じておりま

す。福祉会館を利用する方と、市役所窓口とは隣接しているほうがいい。それから二つ目が、福祉会館を利用する方々は、福祉の観点から、大変、車を利用する方々が多いと考えております。駐車場の確保が、一定の余裕を持った確保ができるという観点が重要だということで、蛇の目の跡地であれば、それは可能と思います。三つ目は、いざ災害が発生したときには、社会福祉協議会には、災害ボランティア本部が開設をされますし、いざ災害が発生したときには、社会福祉協議会を中心に福祉会館も重要な拠点になります。小金井市には当然、災害対策本部が設置をされますが、この防災のことを考えたときにも、福祉会館と庁舎は一体がいいというふうな考えであります。そして、四点目の理由が、何よりも、蛇の目の跡地は小金井市のほぼ中央に位置しているところでありまして、もちろん、坂下の方々からすれば、より遠くなるではないか、という意見もあろうかと思いますが、緑町の方々からすれば、より近くなるではないか、ということで、これはなかなか難しい観点でありますけれども、市のほぼ中央に位置しているということから考えますと、蛇の目の跡地が望ましいということになりました。以上であります。

そして、少し前に進めます。3ページ目の下の、駅周辺のまちづくりの推進であります。話はがらっと変わりますが、今、駅周辺のまちづくりを進めております。ご当地、東小金井駅の北口で区画整理が進んでおりまして、今年度は、進捗率が約70%に達する見込みであります。昨年の3月より、北口のロータリーの最終的な原形が完成いたしまして、共用を開始いたしました。これから、段階的にさらに整備を進めてまいります。最終的には、ロータリーの植栽をしたり、上屋根を付けたりいたします。ちょっとまだお時間がかかります。なお、東小金井駅の北口は、武蔵小金井駅の南口のように、改札を出ますと、ずっと屋根があって、そのままバス停にいけるように全体的に屋根がつきますので、武蔵小金井駅南口のようになりますので、今よりは少し便利になると思います。また、武蔵小金井駅の南口のロータリーと東小金井駅の北口のロータリーが、障害者用の自動車を通用できる駐車スペース、一時駐車スペースも初めて開設をさせていただけることになりました。これは多くの関係者の方々に感謝をしたいと思っております。ただ、北口はまだまだ課題があります。一刻も早くですね、地権者の方々と協議を進めてですね、多くの方々にまちづくりの成果をですね、実感していただけるように努力をしてまいりた

いと思っております。防災の観点、環境の観点、いろんな観点から駅周辺のまちづくりは進めてまいります。また、今、武蔵小金井駅南口第2地区の再開発事業が、いよいよ本格的な工事が進みました。今、解体工事を進めておりますが、早いですね、解体が早いですね。今、数軒しか残っていない状態で、今、更地になっております、ほぼ。今、遺跡調査をですね、しているところであります。私も先日、視察をしてきましたが、三つの防空壕が発見されておりました。掘れば掘るほど、段々段々年代が下がっていきますが、小金井市はわりと、三万五千年前の旧石器時代の石槍が出たりですね、東京都内でも比較的古い時代の土器や石器が出る場所ということで、専門家の方々には注目されている場所と伺っております。32年のオリンピックの開催する年の春には南口の第2地区のまちづくりは完成をする予定となっております。東小金井駅の北口の区画整理事業は、現在31年度完成予定をめざしております。そこで2020年オリンピック・パラリンピックが開催される年には、小金井市はさらに大きくまちづくりが進展しているものと予測しております。北口の区画整理事業もかなり進展して、予定では終わっていなければいけない状況ですよね。それから、高架下の利用、そして武蔵小金井駅の南口の第2地区の再開発も完成しておりますし、30年の秋には nonowa がですね、ドン・キホーテのちょうど南側ですか、大きな広場がありますけれども、あそこに最後の、nonowa のいわゆるモールというのでしょうか、が完成をする予定となっております。

それでは、4ページ、5ページ以降ですね、少し具体の取組みに、ちょっと駆け足になりますけれども、お話をしてみたいと思っております。「子育て環境日本一の小金井」についてであります。ここから先は七つの基本政策に基づいて、今年度の取組み、近況などについてお話をいたします。私はこの子育て環境日本一というものを、このスローガンをとても大切にしております。これは、何も決して、高齢者やお年寄りの方々への政策を弱めるとかってことではありません。高齢者対策、認知症対策、ソフト面、ハード面ともにとても大切です。また、今、元気な方々がやりがいを持ってより健康に生きられる、健康寿命を延ばすための取組みも大事だと思っておりますが、この子育て環境をめざすということは、実はこのことによって、いろんな政策が波及していくとも思っております。このことを努力することによって、ハード面で言えばユニバーサルデザイン、障がい者対策、高齢者対策に

もつながっていくものと思っております。また、何よりも、小金井市に住み続けたいと願われる、そう思っていたくためには、今、小金井市に住んでいる、若い世代の方々にですね、定着をしていただきたいとも思っております。そういった小金井のすばらしい魅力を高めたいと思っております。私は、小金井というまちは、この子育て環境を考えたときに、すばらしい財産がいっぱいあるまちだと思っております。行政だけの力ではなくて、まちの総合力で、この子育て環境を充実したいと思っております。地の利、医療、遊び場。もちろんこれは、小学校、中学校の子ども達も含まれています。あるいは切れ目のない支援でありますとか。たくさんの観点からですね、今、小金井を生きる子ども達、生まれてくる子ども達、そして今、子育てを行っている保護者の方々のいろんなご努力にですね、取組みを応援していける、そういうまちをめざしていきたいと思っておりますし、小金井市にはすばらしい市民の力、地域の力があります。この力をもっと、もっと、子育ての分野にも投入していけるような取組みが必要だと思っております。また、一方で、行政は、もっと、もっと、頑張らなければいけないというふうに思っております。待機児解消はですね、大変急がれます。もちろんですね、数さえそろえばなどと思っております。しかし、待機児を解消することはとても大切だと思っておりますし、同時に、公立、民間含めて、保育の質を高めるということも大切だと思っておりますが。待機児解消につきましては、速報値を先日発表させていただきました。156名の待機児が、直近の、平成29年4月1日現在の数字となりました。このことにつきましては、大変申し訳ないと思っております。平成29年4月、待機児解消をめざしたいと、めざすんだということで私、申し上げてきましたけれども、結果として、待機児は154名、昨年154名だったものが2名増えてしまったという結果になりました。初めてこの報告を聞いたときは、本当に私もショックを受けましたし、申し訳ないという気持ちです。小金井市は人口増。共働き世代の増加。預けられるなら仕事をしたい、いろんなことに挑戦してみたいという方々が増えている。こういう状況の中で小金井市が、そういった世代の方々の期待に応えられなかったということ、深く反省いたしております。待機児解消を図るために、28年度から29年度の1年間で保育園だけで229名の定員増を行いました。認定こども園の分も含めると268名の定員増を行いました。新設園、新しい認可保育園を数園つくりました

し、認定こども園を1園つくりました。小規模保育もつくりました。家庭的保育ママにもご尽力いただきました。公立保育園も棚をどかしたり、面積を増やして、29名の定員増を行って、結果的に229名の定員増を行いましたけれども、待機児が増えてしまったという状況であります。大変重たく受け止めております。今年度はですね、350名の定員増を目標としております。もうすでに、100名の認可保育園を本町三丁目に10月の1日から開設をする準備が整っております、先般、「市報こがねい」でもお伝えさせていただいたところでもあります。残り250名をなんとかして確保できるように、特に、0、1、2、中でもとりわけ1歳児の対策が、最も重要なんですね。しかし、特に、0、1というのは保育士さんをたくさん確保しなければいけない、面積もたくさん確保しなければいけないなどの課題があるのも事実でございますけれども、頑張ったいりたいたいと思っております。これは、厳しいご意見があるだろうなと思っております。なおですね、先般、「市報こがねい」で、このような取組みを進めさせていただくことになりました。とてもかわいいチラシをですね、小金井市の保健師さん、若い職員の方々が作ってくれましたが、初めて、6月1日から、妊婦面接というものを行わせていただくことになりました。これは今までやったことのない取組みです。早い段階から、これから赤ちゃん産まれるお母様、お父様、保護者の方々に、早い段階から、いろんな相談体制を整えたり、悩みを聞いたりするということで、個別面談を行ってまいります。6箇所の方所で行います。だいたい1000人くらいの方々を想定しております。こういった取組みをすることによって、いろんな疑問、妊娠中の方々の疑問、不満、いろんなことの解消につながっていくように、一生懸命、努力をしてまいりたいと思っております。また、初めて、広告付きのですね、一切予算かかってないんですね、新しい、「小金井市みんな子育て応援ブック」というものを作成させていただきました。こういった冊子をですね、活用しながら、子育て支援の充実に努めてまいりたいと、このように思っております。このことにつきましても、今日はさまざまご意見があろうかと思えます。それから、保育園をたくさん増やしているわけでありましてけれども、連動いたしまして、学童保育の大規模化というものにも直面をいたしております。もうすでに、本町小学校は収まりきれず、ランチルームを特別にお借りして、二つの場所です、学童保育事業を展開しておりますが、ずっとお借りす

るというわけにもいかなかったものですから、今年、本町児童館を改修いたしまして、そこに学童保育をするためのスペースを確保いたしまして、そして、この場所で安定的に運営をしていきたいというふうに思っております。また、学童保育の大規模化は、本町小だけではなく、この地元、第三小学校でも、もう来年の4月には、相当数の学童保育希望者が増えると予想しております。今、いろいろな手当て、対策を、鋭意検討しているところであります。小金井市は、全員入所というですね、全国に誇れる歴史と伝統を保持している場所です。私も全員希望者入所というのは、守っていききたいと思っておりますが。しかし、ハード面での、物理的な制約がおきてしまうと、これはもうどうしても限界を超えてしまいます。そうならないように、今からですね、しっかり対策をとっていききたいというふうに思っております。その他、学校教育の充実などにつきましても、小学校、中学校、小金井は、非常に、教育につきましては歴史と伝統のあるまち、小金井の魅力の一つでもあります。小金井市の小学校、中学校の学習環境の向上にいろいろと取り組んでまいりたいと思っておりますが、こちらソフト面、ハード面、両方あります。特に学校というのは大変老朽化しております、雨漏りしているとかですね、私ももう、14校しょっちゅうまわっています。保護者の方々にも日常的にお会いしていますから、いろいろなお声をお聞かせいただいております。今年から、私、14校全部回って、子ども達と学校給食を食べることにしました。子ども達との対話であります。1クラスしかありませんからね、何年生の子ども達と一緒に給食を食べるのか、学校にお任せをしておりますけれども、楽しみにしております。特に小金井は自校方式という方式を守ってきています。僕も南小、二中出身ですけれども、できたての温かい給食が食べられるというのは、小金井の教育の魅力の一つだと思っております。なお、地場野菜をですね、たくさん使えるような、今、取組みを強力に推進しております。かなり、農協さんのお話を聞くと、この1年でですね、利用率が相当増えたようであります、大変うれしく思っております。給食を作っているのは、なにも学校だけでは、公立学校だけではありませんね。保育園、公立、民間、それから病院、いろんなところで調理をしておりますけれども。小金井の都市農業というのも、小金井のすばらしい魅力でありますから、地産地消、おいしい野菜をですね、地元で食べられる、そういうことが食育にもつながると思っておりますので、

これも一生懸命取り組んでいるところであります。なお、まだまだハード面においてはですね、いろいろなご意見、厳しいご意見をいただいているところでありますので、精一杯、学校のハード面、特に非構造部材の、地震が来たときに子ども達の命を守れるような取組みを。耐震化はすべて終わっております。終わっておりますけれども、窓ガラスとか壁とかですね、体育館の天井とかですね、そういったところにも目配せをしなければいけません。今、段階的にやっているところであります。

続きまして、「健‘幸’長寿・ささえ愛の小金井」、主にこれは高齢社会に取り組むことや障がい者対策であります。まず小金井市の高齢化でありますけれども、その前に人口をちょっと発表いたしますが、平成29年5月1日現在、直近の人口であります、119,843名です。119,843名でございます。あと157名で初めて小金井市の人口が12万人を突破する状況になりました。この10年間を振り返ってみますと、毎年だいたい500人ずつくらい、ちょっと微増をしてきたのが、小金井の人口の状況ですが、昨年たった1年間で1,300人も人口が増えました。今、いろいろと分析を担当に指示しているところでありますし、どういうところから小金井市に越してこられるのか、地域、そしてどういう世代が来ているのか、そしてどういう方々が、引越しをされているのか。これはもちろん学生さんが就職したりとか、大学にいったりとか、いろんなことがおきているわけですが、今、そういった分析をしているところであります、1,300人くらい人口が増えました。そのうち、90歳以上の方が、1,516名もいらっしゃいます。そして、100歳以上の方ですね、男性が8名もいらっしゃるんですね。で、女性がなんとですね、56名もいらっしゃるんですね。64名も100歳以上の方が、今、小金井にいらっしゃって、なんと女性の方が男性の7倍、元気ということになります。もちろん特別養護老人ホームに入所されている方も、もちろん含まれておりますけれども。私も、100歳訪問を毎年行いますが、去年はですね、すごい方にお会いしましたね、桜町で、100歳、女性。食事も、入浴も、着替えも全部自分で行う。息子さん夫婦と3人暮らし。元学校の先生です。息子さんがですね、「西岡さん、母の歯を見てください。」って言って、にっこりと笑うんですね。びっしりと全部自分の歯でした。自分の歯じゃないものは1本もない。数えさせていただきましたけれども。80歳で20本。8020運動をですね、提唱しております

すけれども。口腔衛生というのは、今、非常に重要なんです。やっぱり、体の入り口ですよ、非常に大切なんです、歯の健康というのは。その方は、100歳で20本あったのではないかと考えておりますが、そういうモデルとなるような、模範となるような方にお会いして、大変元気をもらいました。元気な方々には、やりがい、いきがい、そして、当然、介護の必要な方々への体制をしっかりと作ることも大切であります。元気な方々のためにもですね、ボランティア活動、介護ボランティア認定制度、あるいはサブスタッフ制度という、これは全国初の取組みを小金井では推進しております。初めて、認知症ケアパスというものも取り組むこともできました。また、大変ありがたいことに、来年5月、平成30年の5月にですね、つきみの園以来ですから、15年ぶりくらいになるかと思いますが、特別養護老人ホームがもう1箇所、新たに新設をしていただけることになりました。民間事業者の方に努力いただきます。150床のベッド数になりますので、今、312名の特別養護老人ホームの待機者の方がいらっしゃいますけれども、少し、半分くらいは、何とか挽回できるのですが、まだまだ、これは、どんどん増えてまいりますから、これでおしまいではありませんけれども、大変ありがたいと思っております。場所は貫井北町のお風呂屋さんがあるのをご存知でしょうか。ぬくい湯さん。その北側でございます。旧国家公務員住宅の跡地であります。こちらで、特別養護老人ホーム、平成30年5月に、開設されます。今、建設工事が着々と進んでおります。この施設の中にはデイサービスもありますし、また、大変ありがたいことに、保育園を作っていただけることになりました。そこでお仕事をされる方々の保育園。これは企業内保育なんですけれども、余裕があれば、地域の方々にも、全面的に開放しますよと、言っていたけておりますので、待機児解消対策の一環にもなればなと、いうふうに願っているところであります。なお、障がい者福祉につきましては、先ほども申し上げましたけれども、今、障がい者差別解消条例、これは仮称です。こういう名称にはしないということで聞いておりますけれども、誰もがともに、差別がなく生きられる、そういう社会をめざした、小金井市初の条例づくりを行っております。なお、今年にしましては、ヘルプマークというものを1,250個作成し、秋からお配りをさせていただきます。ヘルプマークというのはですね、ちょっと見本はないんですが、内部障がいを持っていらっしゃる方、あるいは、

です。外から見ても、お会いしても、お話をしても、障がいとわからない方がいます。難病、あるいは義足、義手、義足の方、さまざまな種別がございますけれども。そういった方もですね、いろんな配慮が、合理的な配慮が必要なんですよという方の、サインですね。これはカバンとかに付けていただいて、やります。なお、ココバスにもですね、今年から初めてヘルプマークの優先席、ヘルプマーク障がい者の方々の優先席というものも、新しい座席、シートを作って、取り組むことになりました。また、貧困対策という意味でもですね、小金井では今、こども食堂、何箇所になりましたでしょうか。もうすでに、はっきり行っているのは2箇所。もうすぐやりますよ、というふうに情報が入っているところも数箇所ありますけれども。そういった、地元の方々の自発的な貧困対策、特に子ども達を守るための取組みには、大変感謝をいたしております。小金井市といたしましても、最大限、ご支援をですね、させていただきたいというふうに考えております。

続きまして、「歩いて楽しいにぎわうまち小金井」、6ページの真ん中へんでございます。一生懸命まちづくりを進めておりますが、駅周辺は、私は、やはり便利で利便性の高いまち、防災の観点からも、まちづくりを進めてまいりますけれども、水と緑を守るための、小金井のすばらしい自然環境を守る、これはとても大切なことだと思っております。今日も何かご質問があったら、お話をいただければと思います。それから、7ページのごみ問題につきましては、先ほどお話をさせていただきました。

7ページの下、「地域がいのちを守るまち小金井」、これは防災、防犯であります。小金井市は残念ながらですね、振り込め詐欺、オレオレ詐欺の被害が非常に多いのであります。闇社会はもう、あの手この手で、いろんな方策を考えてきますが、怪しい手紙、怪しい電話、怪しい訪問、怪しいメール、怪しいチラシ、などなど、気をつけていただきたいと思います。何かあったときにはすぐに警察や市役所に、ぜひご連絡をいただければと思います。また、防災対策につきましては、東京はもう、いつ大規模な地震が発生してもおかしくない状況でございますので、今、鋭意、防災対策に取り組んでいるところでありますが、今日は、午前中、水防訓練というものが、野川の第2調節池で行われて、私も、もちろん参加をしてみました。去年は、いろんなことに取り組みしましたがけれども、今年の3月には、6年ぶりの改

訂となる、今日は持って来ませんでしたが、防災マップを各ご家庭に全戸配布させていただきました。最新の情報、AEDの設置場所。あるいは緊急警報のいろんな枠組みが変わっています。去年はですね、8月の22日にですね、小金井市制始まって以来でありますけれども、避難準備情報というものを発令いたしました。大変緊迫した一日だったことを、今でも鮮明に覚えております。もう今、尋常ではない雨が降ります。またそれは、異常気象というよりも、段々段々、常態化していくのではないかという危険性すら考えておりますが、こういったことに、一生懸命取り組んでいるところでありますが、「避難準備情報」が分かりづらい、「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」と三段階に分かれておりますけれども。まず「避難準備情報」は、「避難準備情報・高齢者等避難開始」ということに、もうさせていただきました。ぜひこの防災マップはご参照いただければと思います。また、新たに、消防団の存在というのはとても大切なんです、そういう意味では、大学生の方々が消防団活動をしやすいようにということで、学生消防団活動認証制度というものを新しく始めさせていただきました。また、自主防災会というのもとても大切です。防災というのは、行政だけで、公的機関だけですべてをカバーするのは、これ、はっきり申し上げて不可能であります。それは皆様方もご存知のことと思います。自助、共助、公助。最近はそこに、自助、近助、共助、公助が大切ですよということをお話しておりますが、市民お一人お一人の防災意識。三日分は、電気、ガス、水道が止まっても、生きていけるだけの備蓄をする努力をしていくことや、あるいは自主防災会などの活動も非常に大切であります。地域でいのちを守るまちということを大切にしております。その一環といたしまして、自主防災組織。今まで250世帯の世帯数でありましたが、100世帯に緩和をさせていただきました。また、新たに災害協定などもですね、随時。岩手県久慈市との新たな協定、トラック協会、小金井市商工会、薬剤師会、いろいろな協定を今、結んでいるところであります。

8ページであります、「湧き水と緑・桜を守るまち小金井」。小金井市は、水と緑、桜と公園のまちであります。小金井市の魅力は何ですかと聞かれると、ほとんどの方がこのすばらしい自然環境ですとお答えになられると思います。この小金井のすばらしい自然環境を守り抜いていきたいと思っておりますけれども、これからの大きな課題は、都市農地。都市農地をどうやって守っていけるのか。このことが

大変大きな課題になろうかと思っております。

続いて、8ページでは、「スポーツ・文化都市小金井」でございますが、あと3年と数ヶ月でオリンピックがやってきます。今年の4月の1日には、小池都知事が直接オリンピック・パラリンピックの旗を小金井市に届けていただきました。私も、小金井ゆかりの選手がたくさん活躍されることを願っておりますし、オリンピック・パラリンピックが開催されることで、小金井市には大きな競技場やホテルはありませんけれども、小金井市が小金井らしく、どういうオリンピック・パラリンピックのレガシーを、遺産を残していけるのか、市民の方々といろいろと考えていきたいと思っております。小金井も、いずれ聖火リレーのコースが決まるんでしょうし、小金井からも市民の方が聖火リレー、何人か持って走るようになるのかなと、期待をして楽しみにしているところであります。

以上、少し、最後駆け足になってしまいましたけれども、私からぜひお伝えしたいことということで、お話をさせていただきました。小金井市には本当に素晴らしい魅力が、たくさんあふれるまちであります。市民の方々にとって、このまちが、誇れるまち、住み続けたいと願われるまち、市民と地域の力がおおいに活かされるまち、何よりも小金井市に住んでよかった、こう思っていただけのようなまちづくり、人づくりを前進していけるように一生懸命、まだまだ道半ばでありますけれども、努力をしてまいりたいと思っております。話せば話すほどだんだん時間が経ってしまいました。本当にすいませんでした。残された時間すべては質疑応答、意見交換に変えさせていただきたいと思っております。どうぞ皆様よろしく願いいたします。ありがとうございました。

3 懇 談

○司会者

失礼いたしまして、これより着座にて進行させていただきます。

では、これより皆様のご意見を受け付けたいと思っておりますので、ご意見ある方は挙手をお願いいたします。

○市民A

○○町に住んでおります、Aと申します。

四つばかり。まず、ココバスのことなんですけど。ココバスは、路面バスと同じようなところを走るのではなく、もうちょっときめ細かく、路地裏とまではいかななくても、ちょっと細い道を走ってくれるようなココバスを考えてほしいと思うんですね。それと、桜町病院というのが、私達年寄りには割合に身近な病院なんですけど、そこへ降りるココバスが、やっぱり桜町病院のちょっと離れたところに停まるんですね。それもちょっと考えてほしいなっていうことが一つ。

それから二つ目は、図書館のことなんですけれども。私がたまたま知っている図書館というのが、緑センターの中にある図書室なんですけど、5時に終わってしまうんですね。そうすると、例えば娘とか孫が、会社が5時とか、残業が6時とかになったときに、本を調べたいとかいうときに、5時に終わってしまうということ。もうちょっと、完全な、司書の方ってことではなくても、シルバーセンターのボランティアの方に、10時までっていうのが無理だったら、8時くらいまで、ちょっと図書館の窓口を開けておいていただいたら、勤めている人たちにとって、ちょっと便利ではないかなと思います。

それから三つ目は、子どもを見守る家ということで、門のところにカンガルーでしようか、絵が描いてあって、子どもを守る家ってことがあるんですけど、何軒か梶野町の子どもを守る家を見て歩いたんですけど、門扉がぴったり閉まっているんですね。そうすると、何かあったときに、子どもをどうするかたちで見守っているのかな、子どもがそのお家に助けを求めるといって飛び込めるのかなっていう、ちょっとそれが疑問に思いました。

それから四番目は、梶野町三丁目に民生委員の方が欠員なんですけど、今も。そこを何とか人選を考えていただけないかなと思います。よろしく願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございました。それでは順次お答えをさせていただきます。ココバスについてでございます。ココバスにつきましては、市民の皆様方からも、お寄せいただく意見の中では、非常にいつも上位を占めているところでございます。今、5

路線運営をさせていただいております。北口1路線、南口4路線あります。きめ細かくということでございます。ご意見として承りました。今、ココバスミニというものが、七軒家循環、いわゆる南口のですね、南小学校の手前ぐらいまで行って帰ってくるルート、1ルートだけ、狭い路地も入れる。狭い路地というのはですね、これは警察の許可がどうしても必要になりますし。何て言うんでしょうか、対面車、対向の車とすれ違えないのは、なかなか難しいですね。警察の許可が出ない状況でありますので。今、ご指摘の、何て言うんでしょうか、本当に狭い路地となると、なかなか難しいかもしれませんが、ご意見として承ります。

○市民A

息子夫婦が住んでいるのは花小金井なんですけど、あれは何バス、はなバス、何かバスを利用する。本当に、江ノ電みたいに庭先を、庭先っていうんじゃないですけど、本当に狭いところを通っているっていうのを、私も乗ったことがあるので、小金井もこういうふうになったらいいなど。路線バスと同じように大通りを走るのでは意味ないなって思いましたので。

○西岡市長

わかりました。ありがとうございます。桜町病院のですよね、バス停が、今、株式会社コガネイ、法政大学のグラウンドの入口のところにあるのが桜町病院入口というバス停であり、そこから桜町まで非常に離れていて、初めて来た方は、ほぼ病院にいけないのではないかと、いろんなご意見をたくさんいただいております。ココバスに関しましてはですね、平成33年度に、庁舎が完成をすることとなりますと、ココバスの路線の見直しも、当然連動してくると思っております。また一方で、今のココバスは、開かずの踏み切りの時代に、ルート設定されたココバス路線となっております。そういう意味からも、もうココバス全体の路線の総合的な見直しや、運営のあり方などについて、改善をすべき時期にきていると思っておりますので、庁舎問題の議論がさらに進み、竣工時期がより明確になってまいりますれば、あわせて同時にココバスの検討にも着手をさせていただきたいと、このように思っております。ただココバスの全面的な見直しでもですね、それなりの時間は要すると思

っていますけれども、私の思いとしては、庁舎の竣工、新しい庁舎が利用されたときには、新しいココバスですね、総合的な見直しが同時に実現しているという状況が望ましいとは思っております。

図書館のことにつきましては、担当職員にこういう要望があったということで、しっかりお伝えをさせていただきたいと思えます。そういうことを改善するために、実は、貫井北センターと東センターは、NPO、民間に運営を委託いたしました。その関係で、図書館は何時まででしたか今までは、7時、たしか夜7時まで利用できるようになったんですね。ですので、今ご指摘のようにですね、司書の方がいなくてもということですが、開けるとなるとそれなりの体制も整えないと、いろいろと質問に答えられなかったりしますけれども。もっと便利に、5時ではなくて、もう少し延長して使えるようにというご要望があったことは、しっかりお伝えいたします。

三点目、カンガルーのポケットでございます。確かにおっしゃるとおり、まあ、なんというんでしょうか、お屋敷のようなお家というか、広い面積を有しているところだと、門にカンガルーのポケットが貼ってあったとしても、あまりに広い場合は、子ども達の声が、すぐ届かない。あるいはインターホンもあるんでしょうけどもね。あまりにも大きなお家の場合は、なかなか分かりづらいということもあるのかも知れません。でも、あのカンガルーのポケットはですね、勝手に貼っているものではなくて、その地権者の方、お住まいの方が、手上げ方式といいましょうか、協力しますよと、自発的に、大半の方は貼っていただいているので、状況は理解していただいていると思えます。ただ、防犯上、ずっと門扉をですね、逆に言うと開けてしまったことによって、そのお宅の防犯体制がどうなるのか、という課題もあるかと思えますので、どういうことで改善していけるのか、考えていきたいと思っております。なお、カンガルーのポケットはですね、小金井市の教育委員会の方々が、今から18年くらい前に作り上げた、素晴らしい取り組みだと思っております。もう、ちょっとシールがだいぶ古くなっている場所もありますから。このカンガルーのポケットの制度が、改めて多くの市民の方々に知っていただきたいですし、協力していただきたいと思っておりますし、お店や商業施設のご協力も大切だと思っておりますので、努力してまいりたいと思えます。ご意見ありがとうございました。

また、民生委員の欠員に関しましては、十分把握をしております。定数があります。空白地域があることも承知をいたしておりますので、今、担当職員ともども、OB民生委員の方や多くの方々に、ご協力いただけないかということで、常時、民生委員の確保に努めているところであります。ぜひよろしく願いいたします。

○市民A

ありがとうございます。

○司会者

次の質問を受ける前に、関連のご意見ないかどうか、確認させていただきます。今、ココバスについて、図書館について、カンガルーのポケットについて、民生委員について、ご意見いただきましたけれども、この件に関しまして、ご質問、ご意見等、大丈夫でしょうか。

では、次の方、挙手をお願いします。

○市民B

今日は座談会に、こうやって来てみて、市長さん、ずいぶん雄弁、能弁なんですよね、ものすごく。だけど、我々素人の前で雄弁、能弁じゃなくて、議会で、プロの政治家を相手にして、もっと雄弁、能弁を發揮してもらいたいんですよ。だから、たしかに市長さんは、口は達者だということはわかった。ところが、時間を見たら、20分か30分で私の話は終えて、あとは懇談会にすると。約束は守らないで、雄弁は雄弁、非常に口は達者だ。では、そういうことを、プロの政治家がいる議会でやってもらいたい。市長さんは33年、平成33年ですかを、竣工、福祉会館と市庁舎。平成33年に竣工させるというんですが、平成33年に至るまでの間に、市長選挙があるんですよ。市長選挙っていうのは、これは水物ですから、落選するか当選するか分からないんですよ。もし、落選した場合に、市長さんはそのつけを、そのあとの市長にほうりなげて、それでご自分は市政のためになるのか。そういうこともいえますよね。

もう一つは、私がいつか陳情書を出したんですよ。以前、小金井公園で、フリー

マーケットを毎週やっていたんです。毎週日曜日に。それで、フリーマーケットは小金井市で一番元気のある場所なんですよ。それが、月に一回になっちゃった。これは確かに都の行政の影響もあるでしょうけれど、小金井で一番元気のある場所をね、もう一回、毎週やってもらえないかと、そういうふうに都に上申しただけじゃないかと、陳情書を出したんですよ。そうしたら、私が傍聴していたら、ちょっとちょっとと言うんで外に出たんですよ。そうしたら、議員と職員にぐるっと取り囲まれて、この陳情書を取り下げてくれないかと。取り下げてくれないかと言う権利があるのかないのか。それで、私もたしかに、都と市民の間に業者が入っているようですねと言ったら、そうなんだよ、だから難しいんだよと、勘弁してくれよと、こういう答えが返ってきたんです。また面倒くさくなって、この陳情書は取り下げましたけど。なんかおかしいんじゃないですか。

それからまた、よく議会議を傍聴していてもね、いろいろなことをやらなきゃならないから、全部が全部聴けるわけじゃないけれども、私が議会に出てないときに決められたことかもしれない。あるいは、ちょっと休憩っていうんで、奥の会議室でやったのかもしれない。それでも話が全部ちんぷんかんぷんでわかんないんだよね。だけど、それが、要するに、市議会の傍聴拒否の一つの手なんじゃないかと。傍聴拒否の手っていうのは考えられるんですよ。横文字の羅列、政治用語・議会用語の羅列、数字の羅列、これをべらべらってやられれば、職員さんはわかる。だけど、我々は全然わからない。職員さんはたしかに優秀ですよ。優秀だから、前の市長さんが言っていたけど、職員はもう非常に優秀だと。なんかこれをやってくださいと指示した場合には120%やってくれると。ただ指示を与えないと、下のほうから、これはこういう利益があるんでこういうことをやりましょうかって言うことはまずないと。それが官僚というものだ。そういうふうに言っていた。今だって体質は変わらないでしょ。だから、今でもこう見ていると、議会でもほとんど答弁を市長さんがなさらないし。だから、市の職員、部長さんや課長さんに、これこれこういうことをやりなさいやりなさいって、指示をしているんでしょうか。それともリーダーシップを発揮できないで、黙っていて、幹部の人だけに話して、幹部の人に指示を任せるんでしょうか。そこんところを言うように。

○西岡市長

はい、多岐にわたりました。まず私は決して雄弁でも能弁でもございません。話をするのはあまり得意ではありませんけれども、もっと議会で活発にというご意見はしっかりと受け止めてまいりたいと思っております。

平成33年度竣工までに、市長選挙があるのではないかということではありますが、まず私は、今与えられた任期は4年間です。4年間の中で成し遂げられることもあれば、その先にならないと成し遂げられないこともあります。小金井市の未来に向かって、成し遂げなければいけない課題は、決して先送りをしてはいけないと思っております。次の選挙のことなどについては、今何も言及できませんけれども、私としては、この平成33年度竣工というのは、たしかに市長選挙のあとではありますけれども、なんとしても成し遂げられるよう努力をしたいと思っておりますが、決めるのは、選挙であれば、当然市民の方々が決めることとなります。私といたしましては、市長選挙のときに、公共施設の老朽化の問題の解決、特に、庁舎、福祉会館については重要視してきた課題でありますから、自分の初心に立ちかえって、この解決に努力するのが、私の使命と受け止めております。

続きまして、フリーマーケットのことについて、いろいろな言及がありました。市議会の動きのことは、私から言及するのは、ちょっと難しいと思っております。ただ、小金井公園においてフリーマーケットが市民の方々に親しまれていることやフリーマーケットがいろいろな出会いの場となっていることは十分理解しております。私自身も小金井公園のフリーマーケットに関わったこともあります。東京都の都立公園の中で行われている事業でありますので、小金井公園の管理者と連携をしながらですね、対応していきたいと思っております。

続きまして、組織運営についてのことだと思っておりますけれども、私は市の職員の方々には、かなりいろんな指示をしています。こういう指示をしましたと、なかなか発表できませんので、申し上げられませんが、この1年4ヶ月、5ヶ月、たくさんの指示はしてきたつもりです。また一方で、私一人で市役所を動かしているではありません。職員の皆様一人ひとりの存在もとても大切です。私は、組織、チームで動くということをととても重要視しております。もちろん、時にトップダウンというの必要でしょう。しかし、一方でボトムアップというものも必要で

す。私は職員の方々に、いろんな思いをお話していますけれども、よく申し上げているのは、一人の職員としても、係としても、課としても、部としても、常に、継続すべきこと、見直すべきこと、新たに取り組むべきこと、この三つのものさしを持って業務にあたっていただきたいということを申し上げております。継続・継承すべきことというのは、これは行政ですからいっぱいあると思います。一方で見直すこと、これは非常に難しいですね。レベルアップ、レベルダウン、運営の見直し、あるいはやめること、廃止すること、こういうのもあるかもしれない。スクラップですね。見直すこと、そして、新しく取り組むべきこと、この三つの意識を持ってみんなで頑張りましょうと、お話をさせていただいております。過去と比較することはできませんけれども、私はこの1年5ヶ月、市長に就任させていただきましたが、いろいろな係や課から、私から提案したこともあれば、職員の方々から自発的にあがってくる提案もたくさん増えたと思っています。市役所の活性化というのは、これは行政の質につながると思っておりますが、やはり職員の方々の能力を、持てる力を最大限果たしてもらおうというのも、市長の大切な役割だと思っております。リーダーシップも大事だと思いますが、一人ひとりの持てる力を発揮できる、そういう組織も大事だと思っておりますので、まだまだ始まったばかりでありますけれども、職員の方々とも対話をしながら、一生懸命頑張りたいと、このように思っております。以上です。

○司会者

庁舎建設の計画に関するご質問、それから小金井公園のフリーマーケットに関するご質問、それから市役所の組織運営について、ということでご意見を頂いておりますが、これら関連するご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。では、次の方お願い致します。

○市民C

今日は市民と市長の座談会ということで小金井市民の方と市長との座談会という事だと思うんですけど、他市からの参加ですみません。私、東小金井駅をいつも使っている西東京市の者です。運動がてら小金井公園もクロスして使っているもんですか

ら。質問と意見と言う事で二点、お聞きをしたいと思っております。一つについては JR 中央線、高架になって非常に立派になってですね、中央線って非常に使用する、下肢というか、便利な線ですから私も使ってるんですけども、色々人身事故等とかですね、よく起こる部分があって、東小金井とかでずっと足止めされちゃう場合もままあるんですよ。何回かありましたけど。そうすると武蔵小金井とか武蔵境の駅って必ず西武新宿線との間にバスが走ってるんですけども、東小金井とかから先は市内の循環バスとかが CoCo バスとかあるいは境の方に行くバスはありますけど、バスの路線が一切ない。小金井公園があるんでこの駅成圏が弱いというか、あまりその東小金井の駅自体が昭和 38 年かな、なんかにできた請願駅とかで学生さんが多くて、ちょっとまちの規模的にもちょっと小さいという制限はあるかもしれませんが、東小金井から、たとえば花小金井とかですね、路線をですね。これは民間のバス事業者という話にもなるのでそういうところはなかなか難しい面もあるかもしれませんが、全くその路線がないというのもちょっと不便だなあと思っているので、何かそういうところのですね、中型バス位になるかもしれませんが、開設に向けたですね、こういうこともお考えいただければ、というふうに思っております。これが一点目。

二点目につきましては東小金井の北口で今、区画整理が進められて街の様子がどんどん変わってますけども、100 円のローソンショップがあるところには市の駐輪場と民間がやってる駐輪場が二つあって私も使ってます。ただ、区画整理が今後進むにつれて、それが多分なくなる、壊してなんかになると思うんですけど、これは JR さんとの話し合いにもなるんでしょうけど、どこかそのなくなった、なくなるであろう駐輪場の代替地っていうのをですね、どこになるのかっていうのは決まっているのか、今検討中なのか、そのところ時期を含めてお聞かせいただければいいなあというふうに思いますのでよろしくお願いします。

○西岡市長

はい、ありがとうございます。けして、市民の方でなくても参加できます。大丈夫ですよ。お越しいただきまして、ありがとうございます。また、東小金井をご利用いただきましてありがとうございます。中央線の人身事故が多く電車に乗れない。そうしますと、他の路線、西武線や京王線に行くに際しても実は路線がないので不便だ

ということ。そうですね。東小金井駅は南口については CoCo バス。タクシーだけです。北口は武蔵境とムーバスの相互乗り入れしてはおりますけど、東小金井駅から他の沿線に行くバスはないということです。これは民間事業者の方々はですね、採算性がとれる前提とはなりますけど、路線バスの路線化をですね、していただくこととなりますので、おそらく、実際どういうふうにされています。武蔵小金井に行つて西武線に行きますか。

○市民 C

止まってしまった場合ですか？

○西岡市長

タクシーも多分すぐなくなっちゃうと思いますので

○市民 C

どうですかね。一回使ったのは新小金井まで行って多摩川線使つて京王線乗り換えでやったことがあります。ただ、京王線と多摩川線って非常にアクセス乗り換え悪いんで不便でした。

○西岡市長

たしかに西部多摩川線は場合によっては白糸台を越えて、西武新宿線と京王線ですね、京王線と乗り換えることに。

○市民 C

7、8分かかりました。

○西岡市長

わかりました。民間事業者の方のご判断にはなろうかと思えますけども、ご意見として受け止めます。小金井の市民の方でも同じ思いを当然、東小金井駅近隣の方々はされていることと思えますので、しっかり受け止めさせていただきたいと思えます。

また、二点目の区画整理の関係の駐輪場ですね。まず予定されておりますのは、東小金井駅の東側に新しく駐輪場を整備する予定になっております。これは、既に南口で1つ、民間の方々からお借りしていた駐輪場があったのですが、それは所有者の方の事情によって閉鎖になりました。今はですね、東小金井駅の西側3.4.11、コマダ珈琲よりももっと武蔵小金井駅よりの駐輪場などに振り替えをさせて頂いておりますが、小金井市の東側に住んでいるの方々からすると駐輪場が遠くなって戻ってくるような感じなのでもっと利便性を高めて欲しいという意見は市民や議会の方々からもお寄せいただいているところであります。いつになるかまだ明言はできませんけれども、なるべく早く、南側の駐輪場を閉鎖しているという現状もありますし、将来の区画整理に備えるためにも先ほど申し上げました東小金井駅の東側に一定規模の駐輪場を早期に整備させていただきたいと考えております。なるべく早くです。もうこれは本当に今年度内をめざしたいくらいであります。具体の整備や相手のJRさんや、色んな協議を整えないといけませんけれども、とにかく最短で作り上げていきたいと思っておりますし、それなりの規模も必要になってくるのかなと思っております。

○市民C

だいたいその高架の下でその医療ホールがある向かいぐらいの位置になるんですかね。あそこもう中央ラインモールの店が入っている所ありますよね。ちっちゃな公園があったり、その反対辺り。

○西岡市長

その辺りだと思います。よろしいでしょうか。

○市民C

はい、ありがとうございます。

○司会

今、中央線が止まった場合の他路線との連絡についてのご要望。それから東小金井北口の駐輪場の代替地についてのご要望をいただきました。関連するご質問ご意見等、

ございますでしょうか。よろしければ次の方、どなたか挙手をお願い致します

○市民D

このような座談会を設けていただきましてありがとうございます。質問と要望が各一点ずつございます。質問は二月でしたか、市議会議員の選挙がございました時に、ある政党が国保税を値上げしてから税金が余ってきていると八億、という政党があったんです。それを還元じゃないですけど、税金を上げた時点で余ってきたからまた下げよう案を公約でおっしゃっていたんです。一人一万円でしたか。下げますよ的なね。それが可能なのかどうか。本当にそれだけだぶついてきているのか、余ってきているのかってこと。

もう一点はあの学校教育の場で書写の時間ってありますよね。書写っていうのは毛筆も含めて硬筆の方が聞いていると多いらしいんです。それはやむを得ないと思うんですけど、毛筆というのは日本の伝統文化ですのでなるべく衰退しないようにですね、継承していただきたいと思うんです。何故ならば立派な教科書だけは配られていますね。これやっぱり税金から全部、教科書は賄っていると思うんですけど、その辺はいいとしましても、書道って時代遅れねとか古いわねという感覚も確かにあると思うんです。パソコンの時代でもあり、英語を導入されてくる時代でもありますので、そんな昔のようなわけにはいかないっていう意見があるかもしれませんが、これはもうれっきとした日本の伝統文化ですので。いろいろの他市とか23区の人達に聞いてみますとですね、結構復活してきているというか、小金井ではそのコンクールとかは私の記憶では20年くらい前に廃止されたんですよ。図工なんかはまだずっと継続して各学校転々と回り持ちになって展示されてるという状況で、その時に、その頃までは書道もそういうふうに一年。今年は例えば図工だとすると来年は書道というようにね、こう交互にやってらしたんですね、昔は。そういう頃は割合生徒も一生懸命になって励んでたんですけど、そういうのがなくなった途端にぱたっと子供があまりやらなくなったような状況、お母さんもお両親もあまり関心が薄らいだというかね、そういうのもないから、まあいっか的なね。それより英語よね。学習塾でもお金もかかりますからね。塾に行っている生徒も大分いらっしゃると思いますので、そっちの方で予算は回らない的なご家庭のいろいろあると思うんですけど、やっぱり昔のように復活し

てくださいという訳ではないんですけど、私、83才の高齢ですので、昔の話すると、何あのおばあさん古いこと言っている、となるかもしれませんが、私なんかは京都で育っている土地柄もあるんですけど、週三回くらい書道があったのですよ。それを毎日学校で。その当時はそういう戦中ですから塾なんかはなかったもんですから、やっぱり字を上手にさせたいと親心があったんですし、教育関係、生徒、日本伝統文化を守らなきゃいけないという形でかなり頻繁にあったんですけど、そこまではしてほしいと思いませんが、せめて月一回くらいはあってもいいんじゃないかなとかね、ある緑小の父兄、人に聞いた事ですけど、教科書を配って書初めだけ宿題に出すなんておかしいじゃないですか、と言った父兄がいたらしいですよ、書初めの宿題だけは紙とお手本も配布されてあるんですが、それを教室に掲示して、ですねそれは中学の話ですが。小学校はなんか体育館に始業式の日かあくる日に集まって、全校生徒に順番に学年ごとにこう、順番に書かせるらしいのですけど、中学は、パーンと宿題だけ集めて、教室に貼って、金賞・銀賞とかってクラスから2名ずつぐらい選ぶ。それだけの話なんですけどね。だから、コンクールは府中や武蔵野市、三鷹市やら小平市やら、他市はみんな、あるらしいんですよ。代表を選んで一定の所に飾って、そんで、みんな見に行きなさい的なね。関心を持たせるといいでしょうか。私にも生徒が一人武蔵野市から来てる、失礼しました、私、書道教室をやっているもんですから。来てる生徒が、先生選ばれましたので、できたら見に行ってくださいみたいなことを言っている生徒がいて、見に行きましたら、確かに各、第一、第二、第八中までありましたかね、武蔵野市。各、第一中の生徒、第二中の生徒って分けて、こう展示してあったんですけど、そこまでして下さいとは申し上げられませんが、当時20年位前に確か、緑小の先生が、もうやめる、一抜けた的なね、「もうあの展示会大変だから。」ってね。確かに大変だと思うんですよ。搬入して飾ってまた搬出して、それぞれの学校に配布してですね、配って返品して、それはちょっと負担なのかなと思って見逃してたんですけど、今日、こういう会を開いてくださいましたので、いつかチャンスがあったら、少し位はもうちょっとその書道の方に力をね、書写の方に向けて、もうちょっと今よりも、もうちょっとやっていただければいいんじゃないかなと思うんですけど、いかがでしょうか。それで、何か、今日のちょっと情報で聞いたんですけど、23区なんかは見直されてきて、機械のパソコンの字だけじゃなくね、肉質で書くと

いう習慣を付けさせるという意味か知りませんが、見直されてきて、書道の時間が増えましたよと、というようなことを聞いたばかりなんですけどね、小金井だけなんか立ち遅れているというか、面倒臭くて、何だろう、知りませんが、言葉悪いですけど、あの一抜けると、うちもうちもうちもやっぱりやめたみたいになって、ぱーっと廃止になっちゃたという事を聞いたので、そういう事で許される、人が一抜けたとよその都合で言ったことに対して、いいですよ、やめましょうとこういう教育委員会なのかどうなのか。そんなことでいいのかどうなのか、教育上。そういうことを伺いたいんですけど、いかがでしょうか。よろしく願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございます。では、選挙の時のお聞きなつたという国保、国民健康保険の財政状況についての認識、それからお習字の先生ということで専門家の方からもっと学校教育で、習字という言葉を使っているいいですか、お習字。

○市民D

書写。

○西岡市長

書写でいいんですか。

○市民D

書写の中の硬筆と毛筆の分野があつて、昨日、生徒の一人に聞いたところによるとこの間、硬筆の書写ありましたよというんですね、毛筆はまだ新学期始まったとこです、でも市長はなられて、西岡市長がなられてから、回数が増えたように、私は市長の采配かどうかは知りませんが、昨年位からお習字の時間もたまにはありますよと、いうんですよ、うちの生徒は。市長はそういうふうにしてくださったのか、教育委員会の方針なのか、父兄が文句を言ったからそれを重要視して再開なさったのか、その辺の事情は分からないのですが、小学校は、時々あるらしいですね。けど、時々といいましょうか、月に一回位ですかね。

○西岡市長

もうお時間のこともあるので、ちょっと私の方からお答えをさせていただきたいと思います。すいません。申し訳ございません。先生の思いは十分伝わりました。

また、選挙ですが、ちょっと話がそれますが、昨年、今年の3月の市議会議員選挙から、東小金井駅周辺でも期日前投票ができるようにということで、これは私もそういう考えがありましたし、市民の方々からのご意見もありましたし、議会で陳情が採択されたということも踏まえまして、マロンホールで、期日前投票が木曜日・金曜日の2日でありましたけれども、できるようになりました。梶野町や東町、近隣の方も含めて多くの方々に投票していただきました。全体の期日前投票の約1割でしたね。マロンホールで投票された方がですね。期日前投票の1割くらいですね。今度、都議会議員選挙でも同様に開催させていただきます。今後、さらに行われる選挙につきましては、常時、東部地域、マロンホールで私としては、選挙管理委員会の方々のご意見も承なければいけませんけれども、せっかく始めたこの投票率の向上、有権者の方々へのサービス向上でもありますので、継続してやっていきたいと思っておりますし、都議選まではまだ市議選と同じような状況であります。来年度以降の選挙については、さらにサービスの改善が出来るように努力してまいりたいと思っております。

なお、国民健康保険税についてでありますけど、税金がだぶついていて8億円余っているという主張は、私は、小金井市としてはしたことは、もちろん行政としてはありません。

○市民D

違うんですか。

○西岡市長

市は、行政は言うておりません。そういうふうを受け止めている政党や会派の方がいらっしゃるのかも知れませんが。これから国民健康保険税は、この高齢化社会の中で非常に大切な制度でございます。そして、日本はですね、国民皆保険制度というのは、大変に大切な制度だと思っております。そして、みんなで支えあっていくのが

保険制度の概念でございます。そして、これからどんどん高齢化が進展していくことになりますと、この国民健康保険制度は非常に重要な保険制度であります。今後、東京都との関係で大きな制度改正が待っています。国民健康保険税の大きな意味での制度設計などはですね、今、各市区町村が行っておりますけど、今度、東京都に移管をされていく方向になります。そういう状況の中で、これから保険者であります、東京都や多くの自治体と色々な協議を重ねている所でございますので、今後の国民健康保険税での動向については、その制度設計の有りようなどと連動いたしまして、適切に対応していきたいと思っております。

次にお習字のことですけれども、私も自分自身の反省も含めてお習字をたくさん勉強したほうが良かったと思っておりますし、小金井の子ども達には、習字の大切さ、書道をですね、書道の大切さというものをたくさん学んでほしいと願っております。ただ、今、小金井の子ども達のみならず、学校教育の現場には、時代の要請に応えなければいけないたくさんの、何て言うんでしょうか、学習的な課題がありますし、どんどん保護者の方々からのご要望も増えてますし、社会の要請もあります。子供たちにはですね、その中で教育委員会の方々には。伝えます、今日、こういうご意見があったということは。書道の先生からのですね、毛筆をもっと勉強するようにということで、ご要望があったということはお伝えします。日本の伝統文化、華道、茶道、書道、場合によっては武道もやっていますよね。いろんな道文化がありますけども、こういった道文化に触れる機会、道文化を学ぶ機会というのは、日本人として、とても大切な事だと私も思っておりますので、すべてというわけにはいかないかもしれませんが、小学校、中学校卒業するまでの間でいい勉強ができるような環境はしっかり整えたいと思っておりますし、今、学校の先生たちもいろんな時代の要請に応えなければいけませんから、中には外部講師でやっているところもあるかもしれませんし、部活などでやっているところもあるかもしれません。いずれにしてもこういった道文化、特に書道に触れられる機会、学べる機会を作ってほしいというお声はしっかりと、教育委員会にお伝えさせていただきたいと思っております。

○市民D

よろしく申し上げます。

○司会

国民健康保険税についてのご質問、それから、書道を大切にしてほしいということで、こちらは大きくは学校教育についてのご要望ということかと思えますけれども、これらご意見、ご要望等。では、お願いいたします。

○市民B

書道について、書道、書写ですか、書写について、これね、今、前に座っている係員や、これをやってる、手話のやっている方に必要なんですが、大体50歳前後で本を読んで、こっちのページ読み終えた、次のページに移った。前のページはすっかり忘れてると、そういう事に50歳前後の他の人に聞いたら、みんなそうだったんですよね。50歳前後になると、そういうふうになっちゃう。前ページに書いてあったこと忘れちゃって、次のページ読んで。私はそれで愕然としましてね。私は勉強は、一生涯駄目なのかと思ったんだけど、ここで救われたのが、書写なんですよね。だから、書写というのは、小学生に薦めるんじゃなくて、45辺りから市報かなんかでね、書写をやりましょう、こうしなきゃ。書写だとね、なんとか頭に残るんですよ。だから、これは、かえって45過ぎの人に書写をやってみませんかということを、粛々に勧めれば返って脳の活性化のなると思うし、僕は、非常にね、ゆっくり、ゆっくり丁寧に字を書きますから、非常に字が上手くなります。で、この前シルバー人材センター行って、筆耕班のことについて意見を聞かれたんですのが。こういっちゃ、なんだがシルバーの筆耕班の字は、ちょっとこう言っちゃうとなんなんだけど、誤字なんですよね。跳ねる所、跳ねない。ながす所、なげない、とめる所、とめないと言ったら、これは言わないでくださいと。現に市議会議長の「議」だって、あれも誤字なんですよね。あれは直さなければいけないかもしれないんだけど、市の議の言べんの方じゃなくて、「義」の方が、下をこうしてやった時、跳ねてないの、議長というのは。何だこれおかしいって言ったら、何か笑ってましたけどね。だから、大きくなって、50ぐらいになったら書写をやらないと、もう本を読んだって無意味になりますから。かえって青年に薦めた方がいいと思います。

○市長

はい、ありがとうございました。貴重なご意見として、承らせていただきます。公民館の講座などで、もしかしたら書道や書写があるかもしれませんが、小金井は、活発にいろんな活動が行われておりますし、生涯学習という観点はとても大切ですから、おっしゃるとおり、書道、書写、字の世界というのは、子どもだけではなく私たち大人も常日頃、振り返って学ぶ必要があるとは思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

○司会

中高年の方への書写の薦めということでご意見いただきました。その他ご意見等ございますでしょうか。

○市民E

このような会をありがとうございます。六年前に小金井市に越して来た者なんですけれども、こちらに来ましたら、都市農業がとても活発で驚きました。地産地消、地場野菜というのがとても身近に感じられるようになりまして、これは、是非、大切に守っていただきたい。子どもたちにも是非、こういう風景はずっと残していただきたいというふうに思います。埼玉県の中で、段階的に街路灯のLED化を進めておられる自治体がありまして、その環境政策のご担当者の方からお聞きしたんですけども、段階的にLED化にしている所の街路灯のそばの田んぼの稲が出穂しなかったという事例が1件あったそうです。エスコ事業ということで29年度の予算案に含められたということなんですけれども、小金井市では、農地に面する街路灯を一斉にLED化されてしまうのでしょうか。LEDに当たりますと、野菜が傷みやすい。また、LEDを浴びた水というのは、分子の何か専門家の方にちょっとお聞きしたんですけども、分子構造がちょっと変わってしまっていて、水が酸、そういう水が、雨水が土に落ちると土が酸性になったりとか、何かちょっと微生物が弱るというようなことがある、というのをお聞きしました。最新の市報の市長のコラムに植樹されたことがたくさん載っていましたけれども、植える場所が、植樹する場所があるというのは、逆に、これまでであった樹木が伐採されて、空きスペースが出来ているということなのではないかと、

最近のを、道路沿いの植え込みとか見ていると思うのですが、車や自転車のLEDライトの影響で植物や土とかにとっても悪影響が出ているというのか段々と見えてきておりました、また検証をされない段階で、量産化に進んで一斉に広げられてきている現状があると思いますので、単に経費の削減であるとか、そういうことだけでなく公共インフラの更新と長寿命化ということが課題になってきていると思うんですけど、そういったLEDを浴びた雨水などが、川の水であったり、海水に入ってきてそれが蒸発して、また雨になって落ちてくるという循環がありますけれども、段々にLED化させて、世の中で進んできて、コンクリートであるところとか劣化が早まっている。また、アスファルトの劣化も早まってきている。だから、アスファルトがヒビ割れてきている所が多くなってきているんですね、最近。それと、植物が、土の微生物が死んでしまうために、根が、植物の根が上手く土を保持できるような、共生関係が崩れてきて、土が崩れ始めて、山がボロボロっとちょっと、高速のそば、車のライトがあたるような所で崩れ始めているというのが段々に確認されるようになってきております。そういうことも踏まえまして、単に経費が安く見積もれるからとかそういうことではなく、長寿命化ということが、単に電気の設備のことだけでなく、もうちょっと大きな公共インフラ全般に関わる寿命の早まりを進めない為にもちょっとご検討いただければと思うのですが、すみません。

○西岡市長

はい、ありがとうございました。大きく二点でしょうかね。都市農業を守るようにということと、LEDによる環境への悪影響についてということでしょうかね。まず都市農業、これは私も先ほど申し上げましたが、小金井市の財産だと思っております。都市農地、都市農業を守っていきたいと思っております。江戸東京野菜というですね、素晴らしい伝統野菜も使っていただいております。小金井は生産だけではなくて、この野菜を活用したレストラン、あるいは給食、地産地消ですよ、これを一生懸命進めて、もっと、いきたいと思っております。だからこれまでもたくさんの方々にご協力いただいております。和菓子屋さん、レストラン、たくさんの方々に小金井の野菜を使っていただいております、その認定店なんかも今、昨年から制度化をいたしました。また、市民の方々にもおいしい地場野菜の存在を知ってもらいた

いと思っております。子どもたちにもたくさん食べてもらいたいと思っております。食育のまちというのを小金井市はめざしておりますので、そのまさに食育の中心は小金井市にある農業との連携だと思っておりますので、頑張っていきたいと思っております。ただ課題はいくつかあります。後継者の課題。あるいは相続税などの課題。あるいは平成34年度になりますと、今から30年ほど前に一斉に生産緑地の指定をしておりますが、これが一旦解除になります。もちろん引き続き継続して生産緑地の指定は可能なんですけども、一旦解除になります。その時にどういう現象が起きてしまうのかということは今から予測して、しながらいろいろな対応策を今、庁内で検討しているところではありますが、いずれにしても農業者の方々の思いがとっても大切ですが、皆さん小金井は頑張っております、農業。小金井の魅力はもちろん美味しい野菜、果物。植木屋さんが多いということも小金井の特徴でございます。そういう小金井の特徴も活かしていきたいというふうに思っております。

LEDの環境への悪影響はすいません、私は初めて、今お聞きしましたので、水や土にそれほど悪影響があるということであればですね、そういう検証が本当にあるのであれば、ちょっとこれは課題になってしまいます。確かにおっしゃるように小金井市は平成29年度8,500灯の街灯がありますが、すでに約1,500灯はLEDになっています。新しく宅地開発した所などはLEDに換えてますし、交換をする時はLEDに換えておりますが、残りの7,000灯をエスコ事業によって、秋に約4か月かけまして全て一斉にLEDに換える予定でございます。という予算化しております。今、ご指摘の様なLEDが水や土、野菜に著しい環境の悪影響を及ぼすということであれば、それは課題になってしまいますので、担当のほうにも話をいたしますが、LEDがどういう影響を及ぼすということになっているのかですね、よく確認してみたいなというふうに思っております。以上でございます。

○市民E

畑のそばも、されてしまうのでしょうか。

○西岡市長

今のところ全ての街路灯をLEDに換える予定になっています。全部です。街路灯

全て8, 500灯ですね。

○司会

都市農業を守ってほしいというご要望。それからLED化についてということで、こちら、農地保全というか、環境保全というか、そういったご意見をいただいたかと思っております。これらに関連する。

○市民B

簡単に、ごく簡単。私の家は北大通りに面しているんですがね。街路樹がずっとツツジが植わっているんですよ。それでね、なんか最近、いやにミミズが増えてるんですよ。ミミズが増えてるということは、要するに土が肥えているんじゃないかと思うんで、今、ご質問になった方とちょっと正反対の現象かなと思うんですが、そのところが、なんか市長さん、研究材料に。

○西岡市長

あとで、場所を教えてくださいたいと思います。

○市民B

郵便局の近く。

○西岡市長

わかりました。

○司会

では、そのほかに、ご意見等ございますでしょうか。

○市民F

一点ちょっとご質問なんです。小金井の固定資産税が、要するに他の市よりも少ない、という問題があって、実は私、中央線沿線、例えば、国分寺とか、あるいは、

京王線ですが、府中ですね。今、駅前をみるとかなり高層の建物をどんどん作っています。そうすると、結構これでまた、府中市、国分寺市の固定資産税が増えるのかな、と思っているんですが。ただ東小金井も武蔵小金井もそうですけど、今、再開発をやっているんですが。見て、どうも国分寺とか府中ほど高層の建物が建つという、建っているという感じがあんまりしない。いつか市報を拝見、市議会のだけを拝見すると、都市計画を次、33年かなんかに見直すという話をしてたんですけど、やっぱり、これだけ東小金井、武蔵小金井、今、駅前開発をやっているんで、逆にいえば都市計画の見直しを前倒しにして、場合によっては、駅前、あるいは主要道路辺りがかなり高い建物を建てるような形で、いわゆる固定資産税の増収策というところちょっと語弊があるんですが、そういうような形を他の市が実はやってることなんでね。別にここは他でやってるんだからやれって言うつもりはないんだけど、国分寺とか府中がやってるんで、そこは可能ではないかなという感じが。それがある意味では1か月2か月、さらに進めるという方法の一つになるのかなと。それから、これはちょっと質問というか、あれですけど、先日、都知事が築地・豊洲の市場関係者と面談をしたというテレビを見ていますと、スーパーの代表の方、イオンですとかマルエツとかですね、の方が、実は市場の活性化というのがあると。要するに土日、年末、市場は休んでいるけど、実はそのときが一番市場のかき入れ時じゃないかと。需要が一番、いわゆる都民が一番魚を消費する時に、要するに市場が休んでいるから、いわゆる新鮮な魚を食べられない。むしろ、そういう時こそ市場を開けるべきではないかと、いう話をスーパーの役員の方がおっしゃて、知事が目から鱗が落ちましたとおっしゃっていたんですけど、多分、この発想は、いわゆる悪い言葉で言うと、役所的な発想では多分出てこない発想じゃないかなということですね。いわゆる一般企業、民間企業だから、出てきた発想じゃないかなと。無論、地方自治体と、いわゆる一般企業というのは、当然、違うのは当たり前の話で、一般企業は、収益、売り上げをやるし、自治体は違うのが普通。ただ、課題、あるいは問題点をいかに解決するか、それからクリアするか、それから組織をいかに有効活用、活性化するかという面では、実は自治体も一般企業も同じではないかと思うんですね。そうすると、自治体のトップ、東京都知事もそうですし、各区長、市長、いわゆるもっとさっき言った事例のように、いわゆる一般企業の、まあ、いわゆる役員、経営者のような感覚が今後、必要になってくるんじゃないかと、

逆にそれが、今後の自治体トップとして求められることではないかと思うんですが、この辺はいかがですか。

○西岡市長

はい。それでは、今、小金井の税収の確保ということで、固定資産税の税収が他の自治体に比べて少ないので、もっと対策を講じたらいいのではないかと、ということが一点。二点目が、民間の発想をもっと行政経営の中に取り入れたらどうか。特に、理事者などの幹部と言われるような人たちがそういう発想が必要なのではないかと、という二点でございます。確かに、議会の方々からのご指摘を頂いておりますし、私も、行財政改革プラン2020を練り上げる中で、小金井市の税収の特徴というものは理解しております。また、歳入を確保するという観点もとても大切だということは理解しております。また、確かに平成33年度に都市計画マスタープランの見直しを行うということになっておりますので、地区計画など、小金井市のまちづくりの上で、大変重要な課題に取り組むこととなります。まず、私の一つ、大切にしたいと思っていることは、基本ですよ、小金井市はやっぱり住宅都市だということです。で、良好な住環境があるというのがとても大切だと思っています。その中で駅周辺に関しては、私は、まちづくりをしっかり進めていく必要があるというふうに思っています。で、そういう状況の中でですね。ただ、駅周辺だけが高度、高層ビルや商業地区になるというだけではなくて、もっと商業地域については拠点化した方がいいんじゃないかというご意見も市民の方々からいただいております。いずれにしても都市計画マスタープランの見直しがきますので、そこで、市民の方や専門家の方や学識の方々に入っていくことになるかと思いますが、小金井市にとってどういう地区計画がふさわしいのか、求められるのか、将来にわたって、人口分析をしながらですね、そして、小金井市の活性化や、小金井市の税収の確保という観点もありますから、様々な分野でこの都市計画のありようというものをこれから是非議論させていただきたいというふうに思っております。ただ、あまり駅周辺に高層ビルが密集するようなものは、あまり、そんなに私はイメージしているわけではないのですが、少なくとも第一地区が終わり、第二地区が始まり、武蔵小金井駅の北口もこれからまちづくりの議論が地権者の方々を中心にスタートします。東小金井駅の南口につきましてもいい商店

街がございますよね。あの商店街、とってもいいですよ。北口は区画整理を中心にまちづくりが始まっていますから、小金井らしいまちづくりということも大切な観点としながら、議論していきたいと思っております。固定資産税が課題だという認識は持っています。続きまして民間活力、民間発想ですが、おっしゃるとおり、行政はいわゆる公的部門、官だけの発想だけではなくて民間のノウハウとかですね、民間の力、地域の力、民間の力を活用もするし、発想も大切にしなければいけないと思っています。あまり知られてないのですが、実は小金井市はかなり以前から土曜日、日曜日開庁をやってまして、今は日曜日、市役所を開けております。窓口業務の。9時から1時まで。その1時はだめだと、もっと開けなさいというご意見もあるかもしれませんが、かなり以前から土日につきましてはですね、市役所は開庁しております。またこれから土曜日、日曜日お仕事する方も大変増えてきてますし、保育園などもですね、祝日、年末年始含めてもっと預けられるようにしてほしいという変化もあるかと思っております。そういった祝日に行政がどう対応していくのかということも大きな、本当に課題です。なお、小金井市はですね、今年から初めて民間企業との人事交流をスタートいたしました。一つは社会福祉協議会と小金井市役所で相互に職員送り合っ、社協さんから1人来ていただいて小金井から1

人職員を派遣するというので人事交流をスタートしました。それから多摩信用金庫さんと人事交流を初めてスタートしました。小金井市からは2年間派遣をいたします。金融機関の中、現場で研修を仕事をしながら、派遣をして、頑張ってもらいます。多摩信さんからは1年交代で、職員が市役所に派遣をされてきます。これはお互いウィンウィンの関係になれるように、頑張りたいと思っていますし、10年経てば5人帰ってくるわけですね、小金井市役所に。これはとてもいい経験になると思っております。また、信金さんはですね、地域密着でまちおこし、まちづくり、シティプロモーション、起業、イノベーション、ともうさまざまなことに信金さんは取り組んでますので、そういう経験を職員として積んで帰ってきてもらうということもとても大切だと思っておりますから、将来の小金井市の政策作りの上でもぜひ尽力してもらいたいと思っております。私自身も官の中だけの発想ではもちろんなくて、民の発想も常にアンテナをはって勉強をしながら頑張っていきたいと思っております。また先輩には行革市民会議で大変お世話になりましてありがとうございました。以上です。

○司会

今、休日窓口のお話の際、市長の方から土日というようなお話がありましたけれども、こちら紛らわしいので捕捉させていただきますが、通常は、原則日曜日に開庁しております。で、月曜日が連休の場合、日曜日だと真ん中の日ということで皆さん来づらい場合もありますので、そういったときには土曜日というかたちで、土日両方ということではなく、日曜の時と土曜の時がありますのでよろしくお願ひします。

今、固定資産税の収収対策としての都市計画についてのお話、それから民間の発想を生かした行政経営をとというご意見をいただきました。ここでもう終了の時間となっておりますので、関連するもの、それ以外のものを含めまして、これで最後のご質問を受けたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○市民C

すみません、今、都市計画の関係で固定資産税の意見があったんですけど、東小金井の北口の関係なんですけど。そこの10メートル道路を広くしますよね。今マルエツのスーパーさんが出来たり、あるいは移転して新しく建てたりしてますけど、まだまだ、北口の方ってあまり商業施設っていうか、そういうのが出来ていないような気がするんですけども、これから3年なり5年なり、その都市計画が完了、区画整理が完了するまでにどのようなお店とかが出来てくるかっていうのが、これはそこに来る会社さんなり企業さんなりが出ないとわからないっていう状態なのか、あるいは一定のところはある程度時間が経てばそれは、そのところの情報があれば、教えていただければ幸いです。

○西岡市長

はい、正直に申し上げますと、これ今、現在進行形でございまして、すべての商業施設のラインナップが今、バチッと決まっている訳ではありません。日々、さまざまな魂が入ってきております。また、基本的にはあの民間主導で行われている部分なので、行政がこういう店舗、と決めているわけでは、もちろんないので、ただ、まちづくり、地元の推進協議会の方や地域の方々が行政もともに入っている推進協議会の

方々がいらっしゃいますから、地権者の方々といろいろな話し合いが行われきてるのは事実ですし、また商店街の方々や商工会の方々もいらっしゃいますので、小金井市らしい、東小金井駅の北口らしい街並みができあがり、そしてそこに、いい魂があつて入ることを願っています。今、はっきりしているのが少なくとも保育園がもっと増えます、これまで以上に。子供たちが増えますよね。そういったことも連想したいんですが、梶野公園という防災公園があつて、マルエツさんの駅前にあそこ全部公園になります。ロータリーとマルエツさんの間あそこ全部、公園になるんですよ。ちょっと珍しいですよ。そういう意味では、あそこでイベントとかできたら将来楽しみなんです、商業スペースだけではなくて、潤いと安らぎと憩いの場になることも期待をしたいし。これは小金井市が作る公園になりますけど。小金井らしい東小金井の北口らしい街並み、またここは小金井公園の玄関口でもありますから、ロータリーへの植栽なんかも、これから始まります。またご指摘のように華屋与兵衛に向かつていく道路は大変広く、歩道が5メートルもとれる道路になります。いろんなことができるスペースができるのかなと思っておりますので。これからのまちづくりをしっかりと進めて参りたいと思います。以上です。

○司会

数々のご意見、ありがとうございました。ご質問、ご要望、参考になるご提案等、多々頂いたと思っております。それでは終了時間となりましたので、これで平成29年度第1回市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。